【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第５部門第２区分
【発行日】平成30年1月25日(2018.1.25)

【公開番号】特開2016-109243(P2016-109243A)
【公開日】平成28年6月20日(2016.6.20)
【年通号数】公開・登録公報2016-037
【出願番号】特願2014-248753(P2014-248753)
【国際特許分類】
Ｆ１６Ｃ　33/66　(2006.01)
Ｆ１６Ｃ　33/64　(2006.01)
Ｆ１６Ｃ　33/41　(2006.01)
Ｆ１６Ｃ　19/16　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｆ１６Ｃ　33/66　Ｚ
Ｆ１６Ｃ　33/64
Ｆ１６Ｃ　33/41
Ｆ１６Ｃ　19/16

【手続補正書】
【提出日】平成29年12月7日(2017.12.7)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
相対回転可能な一対の軌道輪と、
それぞれの軌道輪の相対向する面に形成される軌道溝と、
前記相対向する軌道溝間に転動自在に組み込まれる複数個の転動体と、
前記複数個の転動体を転動自在に保持する保持器と、
前記一対の軌道輪の相対向する領域間を密封する密封装置とを備えて構成される転がり軸受であって、
前記一対の軌道輪の相対向する面のうち少なくとも一方の軌道輪の面の軸方向片側の溝肩が落とされて傾斜面が形成されており、
前記保持器は、冠型保持器であって、その爪部を前記軌道輪の傾斜面側に向けて配設されていることを特徴とする転がり軸受。
【請求項２】
前記密封装置は、外周を外輪に固定するとともに、内周を内輪と非接触に対向させてラビリンスを形成していることを特徴とする請求項１に記載の転がり軸受。
【請求項３】
前記軸受が、７０℃、ｄｍＮ値９０万以上の高温・高速環境下で使用されるモータ支持用軸受であることを特徴とする請求項１または２に記載の転がり軸受。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００９】

第２の本発明は、第１の発明において、前記密封装置は、外周を外輪に固定するとともに、内周を内輪と非接触に対向させてラビリンスを形成している転がり軸受としたことである。

第２の本発明によれば、グリース漏れが抑制され、グリース漏れ起因の早期焼付が防止できる転がり軸受として提供可能である。

【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１０】

第３の本発明は、第１の発明または第２の発明において、前記軸受が、７０℃、ｄｍＮ値（ピッチ円直径×最高回転数）９０万以上の高温・高速環境下で使用されるモータ支持用軸受としたことである。

第３の本発明によれば、高温・高速環境においても適用可能な転がり軸受として提供可能である。